

フェニトロチオンの亜急性吸入毒性・アレルギー性等に関する資料

- 1 . 「フェニトロチオンのラットにおける 4 週間反復吸入毒性試験」(翻訳文)
(実施機関 : 住友化学、実施年 : 2003 年 GLP)

- 2 . 「Sumithion の毒性 モルモットによる皮膚アレルギー試験」
(実施機関 : 住友化学、実施年 : 1972 年)

- 3 . 「モルモットにおけるスミチオン 22% 乳剤の吸入によるアレルギー性喘息につい
ての検討」(翻訳文)
(実施機関 : 住友化学、実施年 : 1977 年)

- 4 . Immunotoxicological Insignificance of Fenitrothion in Mice and Rats.
Fundamental and Applied Toxicology 33, 246-253 (1996)

フェニトロチオンの亜急性吸入毒性および免疫系に対する影響について

1. 吸入毒性

方法	結果	出典
方法：鼻部曝露 (1日6時間、週5日間、4週間曝露) 設定濃度：0、2、4、8 mg/m ³ (実測濃度：2.0、3.8、7.4 mg/m ³)	無毒性量：4 mg/m ³ (コリンエステラーゼ阻害に基づく)	住友化学技術報告 (2003年)

2. アレルギー性

(1) 皮膚感作性試験(モルモット)：獲得免疫(細胞性)

方法	結果	出典
Landsteiner-Draize's method (皮内投与)	陰性	住友化学技術報告 (1972年)

(2) 吸入感作性(モルモット)(抗原性)：獲得免疫(液性)

方法	結果	出典
全身曝露(226, 688 mg/m ³) 感作：2 hr/day × 7 days 誘発：1 hr(最終感作7日後)	陰性	住友化学技術報告 (1977年)

3. 免疫毒性(免疫抑制/亢進)：生体の免疫反応/バランスの変動

投与量×期間：マウス 10, 20, 40 mg/kg, po × 14日間

ラット 0.3, 3, 30 mg/kg, po × 14日間

(Systemic ChE activity に基づいて設定, 高用量はLD50 値の1/25)

分類	試験種	動物種	結果
獲得免疫(液性)	T細胞依存性抗体産生(TDAR)試験	ラット・マウス	陰性
獲得免疫(液性)	Arthus 反応	ラット	陰性
獲得免疫(細胞性)	遅延型過敏(DTH)反応	ラット	陰性
獲得免疫(細胞性)	リンパ球幼若化(B細胞およびT細胞)	ラット	陰性
獲得免疫(細胞性)	リンパ球混合培養(MLA)	マウス	陰性
自然免疫	NK細胞活性検査	ラット	陰性
自然免疫	マクロファージ貪食能	ラット	陰性
-	リンパ球サブセット解析(CD4, CD8)	ラット	陰性

出典) Fundamental and Applied Toxicology 33, 246-253 (1996)